

## 健康福祉常任委員会会議記録（概要）

令和6年10月10日（木）

開 会（午前10時0分）

### 【議 事】

#### ○特定事件「子ども支援について」

##### ・子育て支援について

川辺委員長

これまで当委員会では、子育て支援について、執行部に対する審査を行ってきました。

行政視察については、昨年度は戸田市へ「子育て短期支援事業」、福島県福島市へ「特色ある幼児教育・保育プロジェクト【子ども・子育て新ステージ2020】」、岩手県盛岡市へ「保育士確保対策事業」「子育て短期支援事業」について視察を行ってきました。また、今年度は越谷市へ「こしがや『プラス保育』幼稚園事業」、宮城県仙台市へ「子育て世帯訪問支援事業（育児ヘルパー派遣）」、北海道函館市へ「放課後児童クラブの利用料軽減の取組」について視察を行ってきました。

当委員会では、子育て支援について、委員会として提言を行うこととしております。本日は、これまでの委員会審査や行政視察の内容を踏まえ、今後まとめることとしている提言の内容について、自由討議を行いたいと思いますが、よろしいですか。

(委員了承)

御異議なしと認め、それでは、提言の内容、今後の進め方について協議を行うため、ここで、暫時休憩します。

休 憩 (午前10時3分)

※休憩中に協議会を開催

再 開 (午前10時19分)

### 【自由討議】

川辺委員長

それでは、提言の件名、内容について、皆さんの御意見を伺いたいと思います。事前に配信した正副委員長で作成した提言(素案)を踏まえた上で、提言を提出するための意見をまとめていきたいと思えます。

当委員会では、「子育て支援」を重点的に取り組むべきテーマとして位置づけ、これまで特定事件として執行部の取組について審査するとともに、先進自治体への行政視察を実施し、他市における子育て支援施策の調査研究を行ってきた。令和5年の出生数は8年連続の減少で過去最低となる中、近年の物価高の影響もあり、子育て世帯への支援が喫緊の課題となっている。国は令和4年6月に「こども基本法」を制定し、令和12年までが少子化傾向を反転できるかどうかのラストチャンスと捉え、危機感を持って各種政策を進めている。本市にお

いても「第2期所沢市子ども・子育て支援事業計画」を基に数々の施策を遂行している。「保育・学童両面に渡る待機児童数の削減」や、LINEを活用した分かりやすい「子育て支援情報の提供」と「相談体制の充実」などについては、一定の評価はできるが、現状では学童の待機児童や狭隘化など多くの課題が残っている。本市においても「さらなる子育て支援」が必要だと考える。昨年度実施した所沢市子ども・子育て支援に関するアンケート調査報告書の結果を見ると、子育て支援で充実を希望することの調査項目においては、「幼児期の学校教育・保育の充実」や「経済的支援」、「子どもの居場所づくり」、そして「仕事と家庭の両立支援」という回答が多い。「第3期所沢市子ども・子育て支援事業計画」への移行を前に、健康福祉常任委員会として下記のとおり提言をする。

#### 記

1. 緊急待機児童対策として、既存施設や学校施設の活用を含めた生活クラブ・児童クラブの定員の拡大を図り、あらゆる手段を駆使して待機児童の実質ゼロを早期に実現すること。また、国や県の制度も積極的に活用し、迅速な対応を行うこと。
2. 学童保育の質と量の確保を進め、子どもの最善の利益を守るために、学童保育が子どもにとって安心して過ごせる暮らしの場であり続けること。また、「所沢市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」の第10条第2項に基づき、学童保育専用室の確保を徹底

し、子どもたちが安全で快適な環境で過ごせるようにすること。

3. 質の高い保育サービスを提供するため、保育士の増員を進めるとともに、保育士の労働環境の改善に積極的に取り組むこと。これにより、保育士の確保と離職防止を図り、安定した保育環境を実現すること。

4. 保育園、幼稚園及び小学校においてアンケートを実施し、潜在的な利用希望者のニーズを正確に把握すること。これにより、子育て世帯が求める具体的な支援内容やサービスのニーズを把握し、効果的かつ利用者目線に立った施策を実施すること。

5. 生活困窮世帯、ひとり親家庭に対する支援を強化し、経済的、精神的なサポート体制を充実させるとともに、就労支援や子育てに関する相談窓口の拡充を図り、ひとり親家庭が安心して子育てを行える環境を整備すること。

以上の5項目でまとめましたが、何か御意見はありますか。

中井委員

項目の1番目のところで、実質ゼロというのがちょっと引っかかる。現実的には実質ゼロを目標にしなければいけないというのは分かるが、できれば実質じゃなくて本当のゼロを目指してもらいたい。この提言の中で、実質ゼロでいいのかという疑問を感じる。

赤川委員

私もそのくらい積極的でいいと思う。

今審査している第6次所沢市総合計画後期基本計画には、令和10

年度までに就学前児童の保育待機児童数ゼロという目標を立てているわけである。私はこの令和10年度まで待つのかという意味で、早期にしてほしい。ただ、実際問題として、執行部は実質ゼロという意味でのゼロとしているような感じを受けたので、もし「実質」を取れるのであれば、取ってもらったほうがいいと思う。やはり、項目の1番目にこれをあげるのはすごくいいことだと思う。できれば、かがみの部分の「現状では学童の待機児童や狭隘化など」の後に、「緊急かつ多くの課題が残っている」と入れるくらいしたい。恐らく、所沢市に与えられた課題の中で緊急性が一番高いので、これを1番に持つていくのはいいことである。もし「実質」を取れるのであれば、そのくらいの位置づけとしたい。

もう一点、「緊急待機児童対策として」の後に「放課後児童施設の拡充はもちろんのこと」と入れるといいと思う。その後に「既存施設や学校施設の活用を含めた」ということにしたい。緊急児童対策として、最も市として取り組んでいるのは放課後児童施設の拡充である。これが実質的に一番、待機児童数を減らすものである。これは、拡充はもちろんのことやるのは当たり前だが、健康福祉常任委員会としては、既存施設や学校施設の活用、この学校施設の活用の中には当然、ほかごところのようなことも入っていると思うので、このような形でこれも入れた方がいい。

大庭委員

項目の4番目のところで、「アンケートを実施し」とあるが、その提出先だが、これは担当課のみならず、市議会としてもしっかりと利用希望者のニーズを把握したいというような、別のアンケートの取り方というものもあっていいのではないかと思う。それは、市議会としてもしっかりと皆さんのことを考えているというようなメッセージにもなると思う。これは文章ではなく、手法のほうになっているかもしれないが、そういう部分が文言として入ったらいいのではないかという意見である。

赤川委員

私はいいと思う。提言だから、もっと具体的に入れたらいいと思う。

中井委員

保護者に向けて聞きたいということだと思うが、「保育園、幼稚園及び小学校において」となると、そんなことはないと思うが、対象が保育園児、幼稚園児にアンケートをとるような印象があったので、「の保護者に向けて」と入れる必要があるのだろうか。

正副委員長案はすごくいいと思っていて、潜在的な利用希望者は4年生に上がるときは、もう諦めてしまう人がいるというのをよく聞く。結局もう1園増やしたとしても、これまで諦めていた人が申し込むので、その結果、待機児童があまり変わらないということが起きてしまう。その場所ですべての潜在的なニーズがあるのかというのを、本気でやっていかない限り、ゼロにはやっぱりなっていないと思う。

大庭委員

正副委員長案の項目の3番目に、「保育士の労働環境の改善」があったが、その労働している保育士について、施設にアンケートをとると代表者がまとめて書いて終わってしまうが、もっと現場で働いている人たちのニーズ、声を拾えるようなものも必要なのではないか。よく問題が起きたときに、保育士と保護者の意見が全く違うわけである。そのときに両方聞けないから、片方が悪いというような形になってしまうが、やっぱり両方聞けるというような環境があることによって、それこそ働いている方によって、良い悪いとかではなくて、もっとしてあげたいという先生もいる。してあげたいけど、労働環境はこうだからしてあげられない。例えば、私の娘も保育士だが、東京で働くとき担当する子供の人数が違う。だから、思い切り愛情を注いであげられるけど、1人で担当する人数が多ければ、それはいくらか欠ける部分があるというような親子の会話で出てくるわけだが、そういった保育士のアンケートを取れたらいいと思う。アンケートがせつかくここに入っているのも、いろいろなアンケートで情報収集することによって、私たちもサービスをつくる側として、労働環境も毎回言われているので、そこも改善できるように、みんながウィンウィンになるような仕組みづくりをしていくことが必要じゃないかと思う。

入沢委員

やり方になってしまうが、ニーズを正確に把握するのだったら、今は一部の人だけの無作為抽出でアンケートをやっているわけだが、全員にやらないと正確に判断、把握できないのではないか。全員にやっても、それを

出さない人がそれなりの数がいるかもしれないが、それはそれでいいと思う。どうしてもそれをこの文言に表現するのは難しい。費用もかかるわけである。

大庭委員

アンケートの取り方は恐らく、担当の課でやると思うが、今はもう投書型で、自分でアンケートをどんどん打てるように、意識のある方とか、言いたい方というのは絶対アンケートを打ってくるので、それこそQRコードとか、インターネットでどんどんアンケートが自動的に1年間投書できる。市長への手紙みたいな感じではないが、こういうニーズがあるとか、期間を決めてもいいと思うし、やり方はいろいろあると思うが、集め方は今まで以上に集めることはできると思う。今、アンケートは紙だったと思う。紙だったら郵送料とかかかってしまう。それこそ、市外在住だけど、所沢市に子供を預けている場合もあるかもしれないが、広く一般的にこの市内の施設を利用している人、在住じゃないけど、在学している子もいると思う。そうすると、児童施設で私立はあまりないだろうけど、小学校の場合だったら公立校も私立校も含められる。保護者のみならず、現場で働く人とか、対象者を増やして、対象者とアンケートの手法の部分に関してもう少し書き加えてほしい。

赤川委員

やはり提言は、何か実行できるような具体的なことが入った方がいいと思う。

大庭委員

項目の5番目のところで、「生活困窮世帯、ひとり親家庭に対する支援を強化し」の部分で、生活困窮者とひとり親家庭もあると思うが、障害児を抱える家族について、私の身近に重度障害児を抱える家族がいて、重度障害の人たちは市役所に来てくださいと言われても来られないわけである。また、その人たちの意見を集めたいから、みんなで集まりましようと言われても集まらない。インターネットでどうですかと言われても、もう時間帯もバラバラである。しかし、みんな働いているが、預かっている施設も少ない。その中で、そういう人たちの環境を支援されていることが今まで、本当に薄い。確かに、国じゃないと駄目な金額が高いものが多いが、ここを一つどうしても入れてもらいたい。障害を抱える人とか、本当に重度障害はひどい。でも、その働いている家族は前向きであり、笑顔である。これを見ると、話しているだけで涙が出てくる。だからそういう人たちの頑張りも拾いたい。

赤川委員

子供を育てなくてはいけないけれど、かつ親の面倒も見なくてはいけないといった、子育てをするけれど、かつ他のケアもしなくてはいけない、その中に一つ障害者とか親の介護とか、文言としてはダブルケアという言葉がある。

大庭委員

障害を抱える子供がいたりすると、保護者も自分たちがいなくなったらとか、将来も先行きが不安になってくるわけである。

赤川委員

そうすると、「抱える」という言葉が適当ではないかもしれないけど、「障害児を抱える家庭」という言葉も入れていいのではないかな。

それと、ちょっと肉付けの部分だが、我々は行政視察としていろいろな市に行ったが、提言の中に視察で得た具体的なことを入れられるようなものがあれば入れたい。

川辺委員長

そのほかの意見や提言のタイトルの提案はあるか。

大庭委員

所沢市の未来に向けての子ども支援についてといった、「所沢市の未来」というような文言を入れた方がいいと思う。

**【自由討議終了】**

川辺委員長

それでは、本日出されました意見を踏まえ、「(仮件) 所沢市の未来に向けての子ども支援」について、私と副委員長のほうで提言の素案を作成し、今後の委員会で示した上で、協議していくことでよろしいでしょうか。

(委員了承)

川辺委員長

次回は11月15日に健康福祉常任委員会を開催します。

以上で、本日の委員会を散会します。

散 会 (午前10時50分)